

平成 30 年度

日医生涯教育講座・救急医療医師研修会

(日本医師会生涯教育講座)

仙南地区

日時：平成 30 年 11 月 17 日 (土) 午後 3 時

場所：亶理町中央公民館 (亶理郡)

主催：宮 城 県 医 師 会

共催：宮城県医師会協同組合

# プログラム

## 1. 開 会

## 2. 挨 拶

## 3. 講 演

「宮城県ドクターヘリの現状」

国立病院機構仙台医療センター救命救急副センター長

櫻 井 睦 美 先生

「新たな呼吸器ウイルス感染症の脅威への対応と

感染症危機管理の課題：インフルエンザから MERS まで」

東北大学大学院医学系研究科微生物学分野教授

押 谷 仁 先生

## 4. 閉 会

## 宮城県ドクターヘリの現状

国立病院機構仙台医療センター救命救急副センター長  
櫻井 睦 美

宮城県ドクターヘリは、平成 28 年 10 月 28 日に、全国 39 番目、東北 6 県最後のドクターヘリとして運航開始した。東北地方で唯一の 1 機 2 基地病院体制を敷いており、東北大学病院と国立病院機構仙台医療センターの 2 病院が、週前半と後半の交替当番制で担当している。両基地病院とも、宮城県のほぼ中央に位置しており、宮城県内全域を片道 30 分でカバー可能である。現場救急要請の判断基準としてキーワード方式を採用している。平成 30 年 10 月 31 日までの約 2 年間の運航実績は、要請 640 (0.87/日) 件、出動 503 (0.69/日) 件である。出動内訳は、現場救急が 363 件 (72%)、転院搬送が 105 件 (21%)、出動後キャンセルが 35 件 (7%) である。県内 12 消防本部のうち、15 分～30 分圏内の、基地病院から遠方の地域への出動が約 2/3 を占めているが、基地病院近傍の医療圏での出動も、少数ではあるが増加傾向である。仙南地区への出動は 171 件と多く、全出動件数の約 2/3 を占めている。そのなかで、ドクターヘリによる早期医療介入が非常に有用だった症例を報告する。

宮城県ドクターヘリは、高次医療機関へのアクセスが困難な遠隔地域での需要が多く、地域救急医療支援に大きく役立っているものと推察される。今後は、遠隔搬送に加えて、基地病院近隣医療圏においても、早期現場医療介入を目的にした出動要請を増加させ、ドクターヘリによる救命率や有用性の向上を図っていくために、各消防本部や医療機関と連携していくことが必要である。

## 新たな呼吸器ウイルス感染症の脅威への対応と感染症危機管理の課題

### インフルエンザから MERS まで

東北大学大学院医学系研究科微生物学分野教授

押 谷 仁

グローバル化の進展とともに新興感染症の脅威は増大している。実際に 21 世紀に入り、2003 年の SARS 以降さまざまな新興感染症の流行が相次いで起きてきている。日本でも訪日外国人は飛躍的に増えており、外国人労働者の数もますます増えていくと考えられる。

こういった中で、日本ではこれまで深刻な新興感染症の流行がたまたま起きてこなかったこともあり、国内の感染危機管理体制は不十分なままである。しかし、現在も輸入例に起因すると考えられる風疹の流行が起きているなど、グローバル化に伴う感染症の脅威は確実に増大している。

これまでの日本での感染症危機管理は何か起きたときに、一時的にマニュアルを整備したり、訓練を行ったりするだけであったがそのような対応では、今後国内でも発生する可能性のあるより深刻な事態に対応するには明らかに不十分である。国際的にはリスクアセスメントに基づく、リスクマネジメントという考え方が感染症だけではなくすべての健康危機管理に共通のフレームワークとして考えられており、実際に多くの国でこのようなシステムが運用されてきている。

日本においても、より深刻な想定外の事態に対応できるようにするためにも、リスクマネジメントを含む感染症危機管理体制を整備していく必要がある。



## 平成 30 年度日医認定産業医制度研修会単位シール

(平成 30 年 10 月 29 日開催)

産業医学研修手帳の下記のページに証明シールを貼付して下さい。



◎これから日医認定産業医を認定申請される方（基礎研修）

① 実地研修 「(7) 職場巡視と討論」の欄に貼付して下さい。

◎日医認定産業医の更新（Ⅱ）の手帳をお持ちの方（生涯研修）

① 実地研修 「(7) 職場巡視と討論」の欄に貼付して下さい。